

東京の総合的な交通政策のあり方検討会（第2回） 議事概要

1. 日時・場所

平成26年8月26日（火）16時00分～17時30分、都庁第一本庁舎 7階大会議室

2. 出席者

別紙 参加者名簿のとおり

3. 議題

- (1) ヒアリングの実施状況について
- (2) 東京の交通が目指すべき将来像と政策目標について
- (3) 今後の進め方について

4. 主な発言要旨

〔岸井教授（座長）〕

- ・「総合的な」をどう考えるかが重要。何でもやっているから総合ではない。
- ・利用者の目線で複数の交通手段を考えると、あるいは、違う視点から見て道路空間の再配分を考えるとなどが「総合的な」範囲に含まれる。「有機的な連携による質の向上」が「総合的な」の中身ではないか。
- ・また、利用者が賢く交通手段を選択できるように、情報を提示すること、教育を行うことなども「総合的な」範囲に含まれる。
- ・ハード施策だけでなくソフト施策やプロセス、様々なモード間のバッティング、ぶつかり合いなどの話も含めて整理していくと「総合的な」整理ができるのではないか。
- ・活力、魅力、成長という目標をしっかりと意識した交通体系をつくっていかうということは、1つの意思表示。また、これからの交通は利用者本位で考えるという大きな姿勢が示されている。
- ・今後、将来像や政策目標の内容やレベル感を整理し、都民にもわかりやすく、ここで言う「総合的な」という意味を示すことが重要。

〔屋井教授〕

- ・利用者の視点で「総合的な」交通に踏み込む姿勢が必要。例えば、安全を考えるならば、各交通手段で切って考えるのではなく、家を出てから帰るまでに使われる色々な交通手段を捉えて考えるべき。
- ・例えば、安全と環境という目標が両立しないこともある。複数の目標を同時に達成しようとするときに、目標相互を連携し調整するような、より高度な総合が必要。
- ・交通政策を行う上で、NPOや住民、都民など様々な主体が総合的に取り組んでいくという視点が必要。そのため、目標のレベル、目標を達成する手段のレベルに加え、主体のレベルを含めて

「総合的に」考えることが重要。

- ・段階を短期、中期、長期的に見ながら、「総合的な」交通政策の何をいつまでにやるかという全体のイメージ、計画の体系をしっかりと考えることが重要。
- ・活力、安全、環境、これら全てに関わる生活や社会という切り口は重要であり、これらの切り口で将来像を整理しているのはわかりやすい。
- ・政策目標がかなりプロジェクト的ではないか。ある程度の総合性をいくつかの軸でカバーする抽象的な目標があって、それに対し具体的な施策やプロジェクトが重なってくる構成とすべき。
- ・将来像の環境にだけ自転車という文言があるのが気になる。自転車が抱えている大きな問題は安全に関する問題。安全にすることで利用が伸びる結果、健康にも環境にも役立つという「総合的な」見方が必要。「総合的に」考えて、規制速度を下げ自転車レーンを確保するという発想も必要。

〔竹内教授〕

- ・「総合的な」ということをどう捉えるかが重要。もう少し広い定義で考えてもよいのではないか。
- ・「総合的な」を考えると今ある状況を見て考える、もしくは、今の状況を取り払って考えることもあるのではないか。例えば、人、自転車、車に対し、今ある道路空間をどのように最適に分けていくか、「総合的に」どこからどこまでを今の状況をなしにして打ち立てるかが重要。
- ・旅客が中心となっているが、貨物や物流も東京が経済活動の機能の中心になるために重要。旅客と貨物、物流との「総合的」なあり方も重要な論点。
- ・都市構造の転換は交通を取り巻く背景なのか。都市間競争があり、人口の構造が変わり、環境が変わるから、都市構造が転換する。同様に、交通が都市構造等を変えていくという視点も必要。
- ・将来像と政策目標の区別がつきにくい。将来像の最後の「交通」という文言をとったらどうか。社会の将来像があり、そのような社会を目指すために交通が何を目標とするのかという整理にした方がよいのではないか。
- ・「交通サービスの向上」という表現は、政策目標を整理する上で抽象的で分かりにくい。

〔安藤副知事（副座長）〕

- ・モード別でやっていたものを何とかして脱却したい。より生活に近い形で何か交通の目標をつくるとしたら何かという視点で考えている。
- ・自転車については、都ではこれまでになく大きな課題として取り上げている。空港については、首都圏の空港をどうするかという大きな議論が始まっている。三環状については、これまでの取組によりいよいよ完成に近づいている。モード別に見ると相当よいところまで行っている。しかし、使いづらいなど課題があるため、今までできたものをもう一度見直すことも「総合的な」という意味ではないか。

〔前田副知事（副座長）〕

- ・今までモード別に議論していたが、その壁を取り払いたいというところで議論している。

- ・2020年オリンピック・パラリンピックが控えているため、まず人の動きを考える必要がある。
- ・「総合的な」という話をする際、事業主体、運賃について触れていない。このように「総合的な」という意味がまだ十分ではないため、そこを整理し明示して議論を進めていく必要がある。

〔佐藤都市基盤部長〕

- ・今回の資料では、目指すべき将来像を3区分して、その上で政策目標として考えられる方向性を具体的に示した。「総合的な」捉え方にはまだまだ視点が足りないので、今回の意見を踏まえ整理したい。
- ・次回までに事業者などへのヒアリングも行い、貨物や舟運も含めた「総合的な」交通についての資料を作成したい。
- ・また、TOD (Transit Oriented Development) など、交通によってどのように都市構造を変えていくかという視点でも研究したい。

(文責 都市整備局都市基盤部交通企画課)

東京の総合的な交通政策のあり方検討会(第2回)参加者名簿

	役職名	氏名	備考
座長	日本大学大学院理工学研究科教授	岸井 隆幸	
委員	東京工業大学大学院総合理工学研究科教授	屋井 鉄雄	
委員	東京女子大学現代教養学部国際社会学科教授	竹内 健蔵	
副座長	東京都副知事	安藤 立美	
副座長	東京都副知事	前田 信弘	
委員	東京都都市整備局長	安井 順一	
委員	東京都政策企画局計画部長	小池 潔	
委員	東京都青少年・治安対策本部治安対策担当部長	村山 隆	
委員	東京都オリンピック・パラリンピック準備局輸送担当部長	荒井 俊之	
委員	東京都都市整備局技監	佐野 克彦	
委員	東京都都市整備局理事	西倉 鉄也	
委員	東京都都市整備局企画担当部長	福田 至	
委員	東京都都市整備局都市づくり政策部長	上野 雄一	代理
委員	東京都都市整備局景観・プロジェクト担当部長	小野 幹雄	
委員	東京都都市整備局都市基盤部長	佐藤 伸朗	
委員	東京都都市整備局交通政策担当部長	牧野 和宏	
委員	東京都都市整備局航空政策担当部長	山下 幸俊	
委員	東京都環境局都市地球環境部長	谷上 裕	
委員	東京都建設局道路保全担当部長	川合 康文	
委員	東京都建設局道路計画担当部長	横井 純夫	
委員	東京都港湾局開発調整担当部長	原 浩	代理
委員	東京都交通局企画担当部長	根木 義則	
委員	警視庁交通部交通規制課長	下田 進一	代理
委員	警視庁交通部交通管制課長	和田 敏一	